



校長室だより

2026年3月23日
丹波市立進修小学校
校長 松田 亜矢

卒業式を終えて

本日は、春のやわらかな光に包まれる中、卒業証書授与式を無事に執り行うことができました。保護者の皆様、地域の皆様のご理解とご協力に心より感謝申し上げます。

今年度の六年生は、最高学年として学校全体を温かく支えてくれました。行事のときは、低学年の子どもたちに優しく声をかけ、安心して過ごせるように関わる姿が見られました。その姿は、在校生にとって大きな憧れとなりました。また、自分たちで考えて企画したり進行したりする姿も見られ、本校のめざす児童像、自律する力がついたように感じています。準備や片付けの場面でも、自ら考えて行動する姿が多く見られ、学校全体のよいお手本となっていました。

六年生の子どもたちは、決して順風満帆な学校生活を過ごしてきたわけではありません。入学後、すぐにコロナ禍となり、友だちと自由に関わることや、学びあう機会が制限される中で、多くの我慢や寂しさを経験してきました。それでも、六年生になってからは、「みんなで楽しみたい」「学校生活をよりよくしたい」という思いをもって、行動する姿が見られました。

また、友だちとの関わりの中で悩んだり迷ったりしながらも、話し合いを通して相手の気持ちを考えようとする姿がありました。そうした経験の積み重ねが、子どもたちの思いやりの心を育ててきたのだと感じています。



校長室にも、さまざまな思いを抱えて訪れてくれました。気持ちを言葉にしながら整理し、前を向いて教室に戻っていく姿に、子どもたちの成長を感じる場面が多くありました。

六年生の子どもたち一人一人が持っている、優しさや気遣い、正しいことを大切にしようとする気持ちは、これからの人生を支える大切な力です。

そして、その姿は確実に在校生へと受け継がれていきます。

これからは、五年生を中心に、学校をひっぱっていきます。六年生の姿を見て学んできたことを活かしながら、それぞれの学年で力を発揮してくれることを期待しています。

子どもたちは日々の学校生活の中で、友だちと関わり合いながら大きく成長していきます。保護者の皆様が、いつも温かく見守り、お家で話を聞いてくださったり、励ましの言葉をかけてくださったりしていることがお子様の様子から伝わります。本当にありがとうございます。

今後とも子どもたちの成長を温かく見守り、学校と一緒に支えていただきますようお願いいたします。